24. 力の誤用 Misuse of Power

力を使うときは、相手の人、そして存在全体への深い尊敬と愛をもっていなければなりません。
あなた独自の知的な考えで、誰かほかの人の生を邪魔してはいけません。もしあなたがなにか力をもっていたら、他人を操らないこと、それを創造的に使いなさい。

ラーマクリシュナにはひとりの弟子、ヴィヴェカナンダがいた。そしてアシュラムには、カルウという名の非常に単純で無垢な男がいた。知的なタイプで、議論好きのヴィヴェカナンダは、このカルウをいつもからかってい

カルウは自分の部屋を寺院のように作りあげていた。インドではどんな石でも神になることができる。だから彼は自分の小さな部屋に三百に近い神々をもっていた。ヴィヴェカナンダはいつも彼に言っていた。「この神々を

ヴィヴェカナンダが彼の最初の " サトリ " を、最初の力の洪水を伴って達成した日、考えが彼のマインドのなかに入ってきた.....少し遊んでみようと思って、彼はその考えをカルウのマインドに映し込んだ。「カル
ラーマクリシュナは外に坐っていた。彼はこのゲーム全体を見た。彼は映し込まれた思考を見たにちがいない。だが、彼は待った。カルウが大きな包みをもって出て来た。彼はひとつの大きな袋に神々をすべて入れて運んで
カルウは言った。「これはばかげているという考えが私のマインドに入ってきました。これらの神々をすべて捨ててこようと思います」
ラーマクリシュナは言った。「待っていなさい」そして、ヴィヴェカナンダが呼ばれた。
ラーマクリシュナは非常に怒って叫んだ。「これが力を使う道だというのか? 」そしてカルウに言った。「お前は自分の部屋に戻りなさい。お前の神々をもとの場所に戻すがいい。これはお前の考えではない、ヴィヴェカ

カルウはその考えが変な感じだったことを認めた。あたかも外側から打たれたかのようだった、それにとりつかれてしまったようだった、と。

ラーマクリシュナはヴィヴェカナンダに対して非常に怒っていたので、彼にこう言った。「もう、お前の鍵は私が預かる。お前は二度と再びこれ以上の " サトリ " を得ることはない.....お前は死ぬまさに三日前にこ

そしてそのとおりのことが起こった。彼は何年ものあいだ泣き、すすり泣いた。だが二度と " サトリ " を得ることはできなかった。彼は激しい努力をした。ラーマクリシュナが死の床にあったとき、ヴィヴェカナンダは

そしてヴィヴェカナンダは、自分が死ぬまさに三日前に、もうひとつの " サトリ " を得た。そして彼は自分の死が来たことを知った。
SUFIS : THE PEOPLE OF THE PATH, Vol.1, pp.290-292

Revision #4
Created 4 October 2024 06:03:24 by ゆう
Updated 24 October 2024 07:01:40 by ゆう